

## 研究者インタビュー（材料物性部門）

九州工業大学 大学院工学研究院 基礎科学研究系  
量子物理学部門 教授

美藤 正樹 氏

### <プロフィール>

1998年 日本学術振興会特別研究員DC2（九州大学）  
1999年 九州大学大学院工学研究科エネルギー量子工学  
専攻 助手  
2002年 九州工業大学工学部電気工学科 助教授  
2008年 九州工業大学大学院工学研究院基礎科学研究系  
准教授  
2012年 九州工業大学大学院工学研究院基礎科学研究系  
教授



研究テーマ「有機強磁性体の強磁性発現機構に関する研究」にて、第18回(2003年)材料物性部門の助成を受ける。

### 1. 現在の研究テーマについてご紹介下さい。

研究助成を頂いていた時は、赴任したての大学でこれまでの研究テーマを継続しながら研究室を立ち上げているときでした。私は博士論文のテーマとして、圧力と言う物理量を変えながら有機強磁性体の構造を連続的に制御し、そこでの磁性と構造の関連性を系統的に追跡する研究を行っていました。助成テーマは、それまで対象にしていた物質よりも格段に高い強磁性転移温度を示す物質を対象にして、圧力下物性研究を行い、それを通じて強磁性発現機構を解明することを目指すものでした。助成金によって整備された実験環境は、今日の数十ギガパスカル領域での超伝導体および磁性体に対する超高圧下物性実験の土台となっており、今思えばあの時期に貴財団の研究助成をいただけたことが今につながっていると思わずにはられません。

### 2. 研究者の道に進まれた動機と現在の研究分野を選んだ理由などをお聞かせ下さい。

新しい物理現象を誰よりも先に自分の目で観測し、常に自然現象の真髄に触れることのできる環境下に身を置いて仕事をしたいと考えたからです。現時点では、特殊環境下での精密磁気測定と切り口から、新しい物理現象の発掘を目指しています。

### **3. 若い研究者にメッセージをお願いいたします。**

大学を変わり新しく自分の研究室を立ち上げ際に、多くの方は経済的な問題に直面すると思います。その際、科研費以外にも財団の研究助成を獲得できれば、それは大きな後押しになります。しかし、いつも採択されるわけではなく、不採択の知らせを受け取ったときは誰もが落胆するはずです。しかし、仮に不採択だとしても、自分のやりたいことを整理する良い機会だと捉えれば、何かはプラスの形で残るのだと思います。とにかく研究助成に応募し続けることは大切です。

### **4. 当財団に対する評価やご要望をお聞かせ下さい。**

新しく研究室を立ち上げようとしている若手研究者の後押しをしていただきたいと思います。上記のような研究者は、10万円でも1万円でも欲しいと思っているはずで、小さな大学で今から頑張ろうとしている若手研究者の応援を是非ともお願い申し上げます。

### **5. 今後のご研究に対する抱負等をお聞かせ下さい。**

ここまで積み上げてきた実験技術を核として、誰も見たことのないような物理現象の観測に挑戦して参ります。